

研修名	支援を必要とする子どもの保育		
	平成30年9月13日(木) 10:00~16:00		
講演	「家庭及び関係機関との連携」		
講師	親と子のこころのエンパワメント研究所	馬見塚	珠生 氏

1 講演要旨

1) 発達障害の特性と理解

- ・MSPAとは…。
発達障害用の要支援度評価スケールである。元々持っている特性が表示される。同じ診断名でも、特性は色々である。

2) 発達障害特性を持つ親の子育ての困難とは

- ・子どものいる生活、子育てとは…。
 - ↳ ・臨機応変に子どもの気持ちに寄り添い、子どものペースに合わせて対応する。家事・育児などを並行して同時に効率よく進めていく。
- ・発達障害特性を持つ親は…。
 - ↳ ・子どもの状態に合わせて臨機応変に対応することができず、その全てが困難になりやすい。又、親の特性が強いと子どもは愛着そのものが育ちにくくなる事に加え、子どもに自閉の傾向があると引き出しにくくアタッチメントの育ちが弱くなってしまう場合がある。

3) 健全なアタッチメントを育む重要性

- ・困った時に親の顔を見ると安心できる関係性=安定したアタッチメント。
アタッチメントのベースは、その後の人間関係のベースになる。
- ・親子関係のよしあしとは、一点に集約される。
 - ↳ ・『困った時に親の顔を見ると安心できる』関係性が構築されているかどうかである。
- ・アタッチメントと脳の発達より
 - ・落ち着いている子
我慢する力の基盤は、不快な気持ちが安心で包まれること。
「大丈夫だよ」「怖かったね」「くやしかったね」などと、大人になだめてもらう、受け止めてもらう、教えてもらうことの繰り返しが大切である。恐怖、不安、痛みの感覚の言語化で共有される。(社会化)

- ・落ち着かない子

恐怖、不安、痛みを感じるを否定される。共有されないと、我慢する力が困難になる。(かんしゃく、キレる等)

4) 虐待による脳への影響

- ・身体的虐待…大脳前頭葉⇨情動コントロールなどを司る部位の発達が有意に阻害される。ADHD とよく似た脳になる。
- ・心理的虐待…大脳側頭葉⇨言語野・聴覚野の発達が有意に阻害される。
- ・性的虐待…大脳後頭葉⇨視覚野の発達が有意に阻害される。
- ・ネグレクト…脳梁⇨右脳と左脳の繋ぎ部分の発達が有意に阻害される。あらゆる脳のネットワークに影響が出ると言われている。



特に子どもは、環境が変われば脳は変わる。できることをしていくことが大切である。

2 感想

発達障害の話の中では、発達障害特性を持つ保護者の様々な特性や、保護者が抱えている子育ての困難さ、難しさを知ることができた。周囲に理解してくれる人がいないと孤立したり、抑うつになる場合もあり、より丁寧に家庭を見て支援していくことの大切さも話され、園の役割の大きさを改めて感じた。

グループ討議では様々な事例をもとに話し合い、様々な意見や考えが出た。日々の園での対応と重なる部分もあり、どうしていけば一番良いのだろうかと思悩難しさも感じたが、最後に話された『基本は保護者との関係性を作ることが大切である。保護者の背景に何かあるのかを考える。』『こうかもしれない…とやってみる。上手くいかない時は修正して対応していくことが大切である。』…を念頭に置きつつ、子どもや保護者に寄り添い、又関係機関と連携も取りながら、より良い方向に支援していきたいと思った。

(記録 光保育園 大槻純子)